

第22回「地方発！ベンチャー企業ミートアップ」発表企業紹介

1. 株式会社UniBio (法人番号8110003000912)

代表者	結城 洋司
所在地	新潟市西蒲区新飯田潟88番地
設立	2011年3月11日
事業概要	主に化粧品分野や再生医療分野で使用される原料「細胞増殖因子」の研究開発、製造及び販売を行っている。植物工場内で植物を使い製造するため極めて安全性が高く、既存製造技術（動物細胞や大腸菌使用）と比べて低コストで製造可能な技術を保有している。
企業URL	https://unibio-jp.com/
プレゼンテーマ	植物を活用したスキンケア分野、再生医療分野原料の開発
プレゼン概要	上皮細胞増殖因子（EGF、表皮のターンオーバーを促進させる効果をもつ高価なタンパク質）を植物で製造する技術の開発に成功し、化粧品原料として製造、国内大手商社らと代理店契約を締結、販売中。さらに、複数の製品を開発するべく、大手化学メーカーとの共同研究を開始し、再生医療分野への進出を始めている。この度、技術提携先である米国KBP社より独占的商用ライセンスを獲得したことで、化粧品用原料や再生医療用原料の多品種開発や大量製造など、さらなる事業展開を進める計画である。
PR事項	<ul style="list-style-type: none"> ・「世界初の植物による細胞増殖因子製品（化粧品原料、再生医療用原料）」事業化推進のため、三菱UFJ技術育成財団「平成24年度第2回研究開発助成金」採択に始まり、NEDO「イノベーション実用化事業」、中小企業庁「ものづくり補助事業」、「先端課題対応型ベンチャー事業化支援等事業」支援案件にも採択されてきた。 ・技術提携先である米国KBP社より独占的商用ライセンスを獲得したことで、化粧品用原料や再生医療用原料の多品種開発や大量製造などより大きく事業展開が可能となったことなど、日経バイオテック2017年11月10日号に掲載された。
期待事項	資金調達、販路拡大、業務提携

2. 株式会社スキノス (法人番号2100001030232)

代表者	百瀬 英哉
所在地	〒386-0017 長野県上田市踏入二丁目16番24号 信州大学オープンベンチャー・イノベーションセンター107号室
設立	2017年4月26日
事業概要	発汗は、精神的ストレスに対する防衛反応であり、かつ、暑熱的ストレスに対して恒常性を維持するためのヒト特有の生理反応である。当社は、人々の快適で健康的な生活の実現に貢献することをミッションとして、独自の発汗計測技術を用いた革新的な製品を医学、保健学、心理学、工学等の研究現場に届けている。
企業URL	http://skinos-nagano.co-site.jp/pers/index.html
プレゼンテーマ	信州大学発の革新的な発汗計測技術と学術的知識を活用した、発汗計の医療・健康機器ビジネス展開
プレゼン概要	近年、汗の問題は医療で扱われるようになった。例えば、高齢者や神経疾患による発汗機能の低下は熱中症のリスクを増加させるため、“汗をかけない状態”は生命に関わるものとして認識されている。一方、汗の量が多すぎる“多汗症”は、国内の人口の5%以上と言われており、治療薬の開発も進められている。薬を処方するためには当社の技術を用いた発汗検査が必要となる。2018年4月より、当社技術による発汗検査が保険適用されている。今後は、多汗症の診断機器として適用範囲の拡大を進めるとともに、日本発の医療機器として海外展開を目指す。また、ストレス評価装置の開発、安全運転補助装置の開発などへの展開を行う。
PR事項	当社は、世界的にも類似の無いユニークな技術を有する信州大学発ベンチャーである。1990年代、信州大学の開発者らは、消耗品不要でベットサイドで使用可能な高感度の発汗計を開発し、事業化を行った。また、当該開発者らは発汗に関わる研究を推進すべく「日本発汗学会」を設立した。基礎医学、臨床医、医用工学などの専門家が集まる学会であり、世界の発汗研究を牽引する成果を得ている。開発者らの発汗計測技術は、発汗をとおして健康状態をはかることのできる唯一の技術であり、その応用範囲は広い。当社は、当該開発者らにより学術的に蓄積された知識を活用し、事業展開を推進する。
期待事項	資金調達、販路拡大、業務提携

3. 株式会社サイディン（法人番号2330001022727）

代表者	弘津 辰徳
所在地	熊本県熊本市中央区南熊本3丁目14-3 くまもと大学連携インキュベータ301
設立	2016年4月21日
事業概要	環状オリゴ糖であるシクロデキストリンを応用した医薬品の開発
企業URL	http://cyding.jp
プレゼンテーマ	シクロデキストリンを利用した革新的抗がん剤の開発
プレゼン概要	抗がん剤には、「副作用の発現」が大きな問題点として挙げられる。そこで、弊社はシクロデキストリンを利用して、副作用が少ない抗がん剤の開発に着手した。 具体的には、抗がん効果を示すシクロデキストリン誘導体をもとにがん細胞選択的に届かせる工夫を施した新規抗がん剤を開発した。動物実験の結果から、この新規抗がん剤は、副作用が少なく、また、興味深いことに今までの抗がん剤とは異なる作用機序でがん細胞を死滅させることを明らかにした。今後、更なる検討を重ね、革新的な抗がん剤としての応用を目指す。
PR事項	抗がん剤には、「副作用の発現」が大きな問題点として挙げられる。そこで、弊社はシクロデキストリンを利用して、副作用が少ない抗がん剤の開発に着手した。
期待事項	具体的には、抗がん効果を示すシクロデキストリン誘導体をもとにがん細胞選択的に届かせる工夫を施した新規抗がん剤を開発した。動物実験の結果から、この新規抗がん剤は、副作用が少なく、また、興味深いことに今までの抗がん剤とは異なる作用機序でがん細胞を死滅させることを明らかにした。今後、更なる検討を重ね、革新的な抗がん剤としての応用を目指す。

4. 桐生電子開発合同会社（法人番号8070003002426）

代表者	木暮 一也
所在地	群馬県桐生市広沢町2丁目3330番地1
設立	2015年6月1日
事業概要	電子機器の設計・製造・販売
企業URL	http://www.krydk.co.jp
プレゼンテーマ	「体内糖バランス計」の開発と事業化
プレゼン概要	現在、光を使用して血糖値の変化の様子を測定する「体内糖バランス計」の開発を進めている。この製品は所謂SMBG（自己採血で血糖値を測定する医療機器）の置き換えを目的としたものではなく、血糖値を測定するという発想を転換し、血糖値の変化率に着目した新たな健康指標「体内糖バランス」として提唱している。この機器の最大の特徴は全く採血をせずに血糖値の変化を測定する事であり、だれでもいつでも、何処でも手軽に使用する事が可能な“健康家電”として開発し販売をする事を目指している。この「体内糖バランス計」を使用してもらう事で、生活習慣の改善のための行動変容を促し、日本の予防医療に貢献したい。
PR事項	平成26年度創業補助金”スマートアグリ環境制御装置の開発・販売”で採択され、桐生電子開発合同会社設立 平成29年度ぐんぎんビジネスサポート大賞入賞 第2回めびきビジネスアワード入賞
期待事項	資金調達、販路拡大、業務提携